



大阪公立大学出版会

No.48

NEWSLETTER

ニュースレター

Osaka Metropolitan University Press (OMUP)

目 次

・特別寄稿	藤村 紀文 … 1	・自著を語る(49)「コミュニティ防災 人材育成プログラム入門」	生田 英輔 … 4
・第19回OMUP総会報告	…………… 2	・新刊書の紹介	…………… 5
・自著を語る(48)「文学と地域」	岡村 知子 … 3	・ニュース／編集後記	…………… 6

特別寄稿

J-PEAKSによって推進されるMulCo プロジェクトとスマートエネルギー棟の紹介



大阪公立大学副学長
(産学官共創・知財担当)
産学官民共創推進本部長
藤村 紀文

大阪公立大学は、地域～地球規模の多様な課題の解決と未来社会の創生に貢献することを謳った「大阪公立大学 vision 2030」を公表しました（2023年1月公表、2024年2月改訂）。その中でキャンパスごとに特徴を有する共創リビングラボを配置してこれらを有機的に稼働させ、「総合知」と多様な人材の「共創」による課題探索・解決機能を強化・発展させる「イノベーションアカデミー（ia）事業」を通して、独創的・先進的な研究の活性化を目指すとともに産学官民共創リビングラボ機能によるイノベーション・エコシステムの構築を推進することを宣言しています。

大阪は、日本国土の0.5%の面積に総人口の7%（約880万人）が居住し、大阪市への昼間の流入人口が100万人を超える関西圏の中核都市かつ、世界的観光地の一つでもあり、その持続的発展性の探求には、地域に密着した現状課題の解決はもとより、気候変動や巨大地震・津波等の災害、人口減少・人口構成変化に伴う中長期的な国内外の情勢の変化に即した将来社会を描出することが必要です。本学は、このような様々なレベル・階層における課題や多様なステークホルダーを対象としたマルチスケールシンクタンク機能を確立し、住民の高いQOLを実現するwell-being都市創造拠点となることを目的とした大学改革を推進しています。その一つとして、2024

年4月、産学官民共創の推進と研究成果の社会実装を加速化する教職協働組織である「産学官民共創推進本部」が設立され、自治体等との共創により地域課題の解決から未来都市構想の提言を推進する体制が強化されました。このような取り組みが評価され、地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージの3つの外部資金「地域中核大学イノベーション創出環境強化事業、地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業、地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」に採択され、「ia事業」をベースにした大学改革が進んでいます。

J-PEAKS事業では、MulCo（Multi-level Co-creation）プロジェクトと命名された学内プロジェクト：「イノベーションアカデミー事業の推進によるマルチスケールシンクタンク機能を備えたwell-being都市創造拠点の構築」を推進しています。ia事業を通じて共創研究を加速化するために、各キャンパスのリビングラボを連携させる全学ネットワーク型イノベーション・エコシステムを構築し、総合知の実践の場を提供します。そのために、戦略的なリソースの投入や技術移転戦略体制の強化、教員の研究時間の確保などの大学改革も進めています。

さらに、社会から信頼され、行政のブレーンとなる都市シンクタンク機能や自治体と連携したソーシャルキャピタルの醸成を目指した組織構築を進めています。地域の課題解決プロジェクトタスクフォースを構築するとともに、自治体を大学の実証フィールドとする「サテライトキャンパス」、行政のDX/GX化やスキル支援である「スマート社会研修」を開始しました。それらの社会的なインパクトや効果を検証しながら、ソーシャルキャピタルを醸成させます。また、アジア諸国の地域に適したwell-being指標やソーシャルインパクトを議論する「アジアラウンドテーブル」を組成し、アジア諸国からの信頼を得る大学を目指します。

施設整備事業により中百舌鳥キャンパスに2025年2月に竣



イノベーションアカデミー共創研究拠点（スマートエネルギー棟）

工するスマートエネルギー棟は、風力発電や太陽電池など本施設に設置された多様な創エネ・省エネ・蓄エネ機器の最適化やAI化を可能にする統合プラットフォーム、エネルギー マネジメントシステムやロボットシステムを利用して産学官が共創する実験施設（実証実験の場）となります。1階には325インチの大型ディスプレイを設置したオープンイノベーションスペース（堀場新吉スクエア）、2階には最先端の物質評価機器のショールームを整備するだけでなく、データ連携・ネットワーク化・プラットフォーム化の促進、技術者・研究者育成連携などの共創活動を包括的に推進する仕組みを構築し、スタートアップ企業のインキュベーションスペースも確保しました。本施設に入居する企業とは、総合知を用いた共創事業、社会実証実験、社会実装された技術を基礎研究

で支援する取り組み、特徴ある学生グループとの共創活動など、オーダーメイドでの共創活動がデザインされ、すでに大手企業の入居が決まっています。

このように、総合振興パッケージ関連予算の獲得を通じて、本学が地域の中核研究大学として社会から信頼され、知の拠点として都市・社会のモデルを発信する未来アジアの都市シンクタンクへ成長するためのスタートラインに立つことができました。この活動の成果を広く発信する方法の一つとして、大阪公立大学出版会（OMUP）からの書籍出版が、大変有用であると考えています。このチャンスを最大限に利用して大学が更なる発展を遂げるために、産学官民共創活動への一層のご理解・ご支援を賜りますようどうぞよろしくお願ひいたします。

第19回OMUP総会報告

令和6年6月15日（土）午前11時から正午まで、大阪公立大学中百舌鳥キャンパスB14号棟2階自己研修室において、第19回特定非営利活動法人大阪公立大学出版会（OMUP）の総会が開催された。総会成立の確認後、八木孝司理事長を議長に選出し、さらに金井理事と伊藤理事を議事録署名人に指名して、議事に入った。

第1号議案「令和5年度事業報告」では、昨年刊行された図書が23冊であったこと、「大阪公立大学教員が選んだ「新生に薦める100冊の本」」を発行したこと、OMUPニュースレターを2回（No. 46、47）発行したこと、丸善雄松堂株式会社と電子書籍の販売契約を締結したこと、責任編集作業強化のため、編集者出席のもと、編集長を中心に編集会議を開催し、新刊図書のでき映え、問題点改善などについて意見交換を行ったこと、書籍発行の都度OMUPのホームページ

およびフェイスブックを更新し、迅速な情報発信を行ったことなどが報告され、満場一致で承認された。

第2号議案「令和5年度活動計算書」は、次ページの表に示す通りである。監事より「適法かつ正確である」として署名捺印したことが報告され、満場一致で承認された。

第3号議案「役員等について」では、森澤和子、池平紀子、篠田美紀、牛冰、アウケマ・ジャステインを新たに理事に選任することが提案され、満場一致で承認された。

第4号議案「業務契約」では、杉本公認会計士事務所との顧問契約、事務局業務に関して湯井順子、西本佳枝との雇用契約、出版物編集業務について川上直子、中村奈々、田野典子、谷角素彦と業務委託契約を継続することが提案され、満場一致で承認された。

第5号議案「令和6年度事業計画」では、受託出版事業と

して研究報告書、博士論文、研究叢書、退職記念論文集、大学史・研究室史・クラブ史などの出版を働きかけることのほか、出版物の受託販売事業、絶版書籍の電子書籍化事業、OMUPブックフェアの開催、出版目録の作成と配布、ニュースレターの発行、「大阪公立大学教員が選んだ「新入生に薦める100冊の本」」の発行、ホームページおよびフェイスブックの運営、OMUPサロンの開催など、おおむね前年度と同様の事業を展開することが提案され、満場一致で承認された。

第6号議案「令和6年度活動予算」では、下記の表に示すような予算が提案され、満場一致で承認された。

(文責：中村 治)

令和5年度事業決算および 令和6年度事業予算書

(単位：円)

科 目	R5 決算額(税抜き)	R6 予算額(税抜き)
経常収益		
収益部門収益		
書籍売上	4,517,678	4,500,000
出版収入 著者負担	8,653,094	8,000,000
出版収入 大学負担・出版助成等	7,238,668	5,600,000
受取利息	53	50
雑収入	164,829	0
小計	20,574,322	18,100,050
公益部門収益		
寄付金収入	0	0
入会金収入	170,000	150,000
小計	170,000	150,000
経常収益合計	20,744,322	18,250,050

経常費用		
収益部門費用		
売上原価		
期首商品棚卸	1,785,378	1,709,525
製作費	9,861,417	9,000,000
運送・発送費	306,599	300,000
編集デザイン料	682,685	650,000
期末商品棚卸	-1,709,525	-1,600,000
管理費用		
雑給	3,685,240	3,700,000
法定福利費	372,660	380,000
福利厚生費	23,743	30,000
業務委託費	300,000	300,000
旅費交通費	422,016	430,000
通信費	98,034	100,000
会議費	34,008	35,000
地代家賃	0	0
水道光熱費	41,346	45,000
保険料	107,100	110,000
著者精算	1,686,569	1,700,000
消耗品費	267,550	200,000
事務用品費	72,438	80,000
租税公課	2,150	100,000
広告宣伝	25,320	10,000
支払手数料	239,785	250,000
諸会費	0	0
新聞図書費	787	0
雜費	910	1,000
法人税等	492,807	500,000
小計	18,799,017	18,080,525
公益部門費用		
製作費	49,601	50,000
小計	49,601	50,000
経常費用合計	18,848,618	18,130,525
当期経常収支増減額	1,895,704	119,525

自著を語る（48）



文学と地域

—自他が尊重される
〈場〉を問う

著者：岡村 知子

A5判、上製本、348頁
3,960円（本体価格3,600円+税）
978-4-909933-56-0 C0095

本書は、文学作品の舞台となっている地域や、作品が生み出される〈場〉に着目しつつ、1930年代以降、現代にかけて著された小説や戯曲、短歌やラジオドラマの精読を試みたものである。第一部では、久保栄や太宰治、金達寿、津島佑子、

村上春樹の作品を取り上げ、過酷な労働環境や戦時下における郷土と植民地、ジェンダー非対称な社会構造において浮かび上がる、自己と他者とともに尊重することの（不）可能性について追究した。同様の観点から第二部では、鳥取にゆかりのある書き手（杉原一司や岡本愛彦、小谷治子、徳永進、松本薰）の著した作品を読み解いた。

本書に収録した論考の半数以上が、2015年に鳥取大学地域学部に着任して以降に執筆したものであるが、その過程は、フィールドワークを通して現実の地域課題と向き合うという学部のコンセプトのもとで、それまで自明のものと考えていた“虚構（言語的構築物）の価値”を改めて問い合わせでもあった。文学作品においては、“何が” “どのように” 表されているかは表裏一体であり、後者が前者を規定するといつても過言ではない。ここでは、紙幅の関係で本書に取り上げることのできなかった、さざわさぎ『夢のあとさき』（小さな今井 2021年4月）を例として、文学的な表現の特徴を見

てみたい。

新宿で、かつての恋人「立野さん」と偶然再会した「佑果」は、「立野さんがここにいるわけがないわけでもなく、だってわたしが立野さんと会っていたのはだいたい新宿のこのあたりの飲み屋であったし、ああだからわたしは新宿で飲むのをやめたんだったかもしれない、と思い出す」(傍点引用者)。傍点を付した、二重否定の回りくどい文体には、「佑果」が「立野さん」とそこで過ごしたかけがえのない時間と、彼を失っていたその後の8年間、そしてこの日無意識に懐かしい空間に足を運んでしまった事実等が折り畳まれており、その時間と行為の堆積の上に、眼前的「立野さん」は危うく立ち現れている。すなわち、“ここにいるわけがないわけでもない”を“ここにいる”と言い換えることは不可能であり、“あるものが存在する”ということは、その不在を打ち消そうとする何者かの意志の働きによって、辛うじて存在し得ているこ

とと同意なのかもしれない。

再会を果たした二人は、駆け落ち同然の形で東京を後にし、鳥取市を思わせる地方都市で同棲を始めるが、映画の制作という共通の夢を見失った彼らは「もう話すべきことがみつからないから、ただ肌を触れ合はず」。人は、目の前の他者との間に話すことがないとき、相手のために好きではない仕事をしたり、相手が明日も働くように料理を作ったり、セックスをして子どもを産み育てたりするのではないか。そう考えると、“話すことがない”ことは偉大な空白であるとも言えるわけだが、「佑果」は「立野さん」と話すべきことを取り戻すために、彼を捨てて東京に戻ることを決意する。

このように文学表現は、“現実の地域課題”なるものからこぼれ落ちる物事や感情をすくい取る精緻な網として広がっており、その文様を読解する喜びは、現実を生きる／変えていく動因となり得ると信じたい。

(鳥取大学)

自著を語る（49）



コミュニティ防災人材育成プログラム入門

著者：三田村 宗樹・重松 孝昌・生田 英輔・吉田 大介・増田 裕子

A5判、並製本、130頁
1,980円（本体価格1,800円+税）
978-4-909933-71-3 C2036

2011年の東日本大震災の教訓から、災害対策は防潮堤の整備のようなハード対策に加えて、防災教育や災害伝承といったソフト対策がかつてないほど重視されるようになった。ソフト対策には災害対策基本法に追加された地区防災計画のよう、各種コミュニティの防災活動を後押しする制度も含まれている。

本書は大阪公立大学都市科学・防災研究センターの前身の大阪市立大学都市防災教育研究センターにおける「コミュニティ防災人材育成プロジェクト」が端緒である。このプロジェクトでは既存の様々な防災人材育成の取り組みを分析し、コミュニティ防災において必要とされる人材像を新たに考え、その育成プログラムを提案した。幸いなことにこの提案はJSTの研究助成に採択された。

本書はJST社会技術開発研究センター（RISTEX）のSDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラムソリューション創出フェーズに2020年度に採択された「コミュニティ防災人材育成システムの全国展開に向けた実証プロジェクト」の成果報告という位置付けである。本プロジェクトは先述したコミュニティ防災人材育成のプログラムを体系化し、多様なス

テークホルダーと協働して、大阪も含めた全国の複数地域で育成プログラムを実証するものであった。採択が決まった時期はちょうど新型コロナで各種活動が制限を余儀なくされ、苦しいスタートとなり、eラーニングやWebプラットフォームを整備することは必須となったが、これが想定以上に功を奏しプロジェクト参加者からも高い評価を得ることができた。また、新潟、熊本、愛知などの他地域展開にあたっても、打ち合わせなどをオンラインで進められる社会は時間と予算の節約につながった。

本書は、このプロジェクトの背景として見過ごされがちな、自治会や自主防災組織、コミュニティ防災の基本を冒頭で解説している。既に地域で防災に取り組んでいる方からも、このような基本的な内容も参考になるという意見をいただいた。本書のメインとなるのは育成プログラムの内容、教材であり、全国各地で防災のワークショップ等を実施されている団体・個人にとって有益な情報を提供できるようにした。さらに、人材育成プログラムの修了者の声も掲載し、プログラムに対する評価をいただいた。2024年3月で助成期間は終了したが、本人材育成プログラムのような取り組みのニーズは高く、本書はプログラムを紹介する絶好のツールとしても活用できている。

本稿を執筆している2024年8月、ついに南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）が発令された。そう遠くない未来に大規模な地震に襲われる可能性が高まるなか、担い手不足などにより地域コミュニティにおいては防災活動への閉塞感を感じている方も多いかもしれない。コミュニティ防災人材は地域コミュニティも含めた多様なコミュニティを防災でつなぐことがコンセプトであり、地域社会の防災・減災を目指した取り組みの活性化に本書が一助を担えればうれしく思う。

(大阪公立大学 生田 英輔)

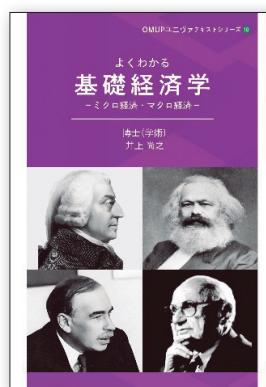
新刊書の紹介



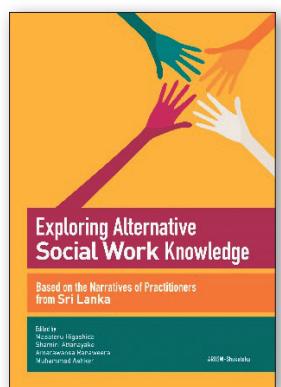
人権保育の理論的基礎 〈大阪〉からの提言
著者：吉田 直哉
A5判、並製本、86頁
1,980円（本体価格1,800円+税）
978-4-909933-79-9 C3037



OMUPブックレット No.71
緑の革命をもう一度 一多収を目指した植物品種改良—
著者：加藤 恒雄
A5判、並製本、78頁
1,100円（本体価格1,000円+税）
978-4-909933-75-1 C0061



OMUPユニヴァテキストシリーズ10
よくわかる基礎経済学 一ミクロ経済・マクロ経済—
著者：井上 尚之
A5判、並製本、66頁
2,200円（本体価格2,000円+税）
978-4-909933-78-2 C3033



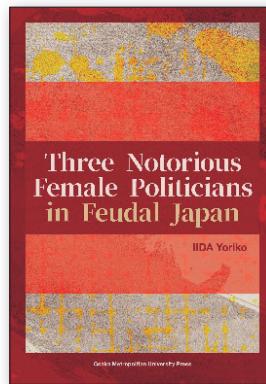
Exploring Alternative Social Work Knowledge: Based on the Narratives of Practitioners from Sri Lanka
著者：Masateru Higashida, Shamini Attanayake, Amarawansa Ranaweera, Muhammad Ashker
A5判、並製本、142頁
1,210円（本体価格1,100円+税）
978-4-909933-76-8 C3036



新しい哲学による資本主義の諸問題の解決を 資本主義の矛盾拡大と自然環境の不可増大への対策
著者：建部 好治
B5判、並製本、194頁
2,200円（本体価格2,000円+税）
978-4-909933-70-6 C0033



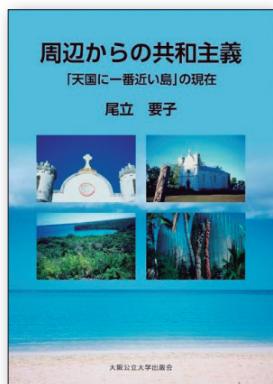
オーストラリアの多文化社会をめぐるディスコースの分析
著者：仲西 恭子
A5判、並製本、272頁
2,860円（本体価格2,600円+税）
978-4-909933-73-7 C0080



Three Notorious Female Politicians in Feudal Japan
著者：IIDA Yoriko
A5判、並製本、142頁
2,750円（本体価格2,500円+税）
978-4-909933-74-4 C0023



土質力学 II
著者：大島 昭彦
B5判、並製本、80頁
1,650円（本体価格1,500円+税）
978-4-909933-67-6 C3051



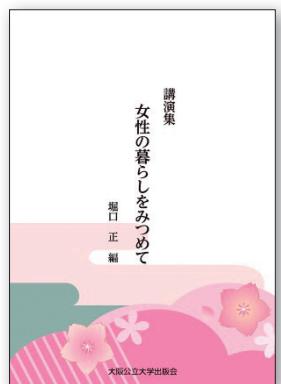
周辺からの共和主義 「天国に一番近い島」の現在
著者：尾立 要子
A5判、並製本、236頁
2,750円（本体価格2,500円+税）
978-4-909933-72-0 C0036



コミュニティ防災 人材育成プログラム入門
著者：三田村 宗樹・重松 孝昌・生田 英輔・吉田 大介・増田 裕子
A5判、並製本、130頁
1,980円（本体価格1,800円+税）
978-4-909933-71-3 C2036



OMUPユニヴァテキストシリーズ9
情報技術と企業活動
著者：渡邊 真治
A5判、並製本、118頁
1,650円（本体価格1,500円+税）
978-4-909933-66-9 C0034



講演集 女性の暮らしをみつめて
編者：堀口 正
A5判、並製本、250頁
2,750円（本体価格2,500円+税）
978-4-909933-69-0 C0036



OMUPブックレット No.70
保育士の早期離職を防止する園内体制の検討 一すべての保育士が生き生きと働き続けられる園を目指してー
著者：木曾 陽子
A5判、並製本、88頁
1,100円（本体価格1,000円+税）
978-4-909933-65-2 C0336



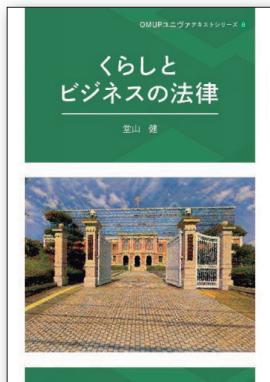
コーリングのマネジメント 使命感をもつ人材をどのように活かすか
著者：上野山 達哉
A5判、上製本、180頁
3,630円（本体価格3,300円+税）
978-4-909933-64-5 C0034



「ニュータウン」再生のための空き家対策とその有効活用
著者：川端 博之
A5判、並製本、204頁
3,300円（本体価格3,000円+税）
978-4-909933-68-3 C3036



就職困難者の就労支援と在宅就業
—家内労働と自営型在宅テレワーク—
著者：高野 剛
A5判、並製本、414頁
6,600円（本体価格6,000円+税）
978-4-909933-60-7 C0036



OMUPユニヴァテキストシリーズ8
暮らしとビジネスの法律
著者：堂山 健
A5版、並製本、98頁
1,980円（本体価格1,800円+税）
978-4-909933-63-8 C0032



再生可能エネルギーと経済循環型の地域づくり 地域主体による太陽光発電事業の拡大に向けて
著者：加勢田 光博
A5判、並製本、293頁
2,970円（本体価格2,700円+税）
978-4-909933-59-1 C3036



文学と地域 一自他が尊重される〈場〉を問う
著者：岡村 知子
A5判、上製本、348頁
3,960円（本体価格3,600円+税）
978-4-909933-56-0 C0095

ニュース

- ◆建部好治氏が、弊会から出版された書籍『新しい哲学による資本主義の諸問題の解決を』(2024年)『不動産価格バブルは回避できる』(2013年)等により、令和6年度日本環境共生学会 学会賞(環境共生功労賞)を受賞されました。
- ◆『周辺からの共和主義「天国に一番近い島」の現在』尾立要子著の書評が毎日新聞(2024年6月29日)の「今週の本棚」に掲載されました。
- ◆松本英之氏が、弊会から出版された書籍『マーケティングを活用した港まち再生と観光開発』(2020年)等により、令和6年度日本港湾協会港湾功劳賞(公益社団法人日本港湾協会主催)を受賞されました。

編集後記

今年の夏は異例の猛暑が続き、体調管理に気を使いながら、過ごしやすくなる日をまだかまだかと指折り数えております。

第48号のニュースレターができました。今回は、新刊本の発行が19冊。現在多くの方が編集者、事務局と共に書籍の発行を進めています。

教科書や研究成果報告書等、書籍の出版に関心があるかたは、お気軽にOMUPにお声かけください。お待ちしております。

(文責:湯井順子)